「授業備品」NO4　H.27.6.22 **「ワークショップ付箋型とレポート型」**

●「３０分ワークショップ付箋型」

ワークショップは、参加者が自ら参加・体験して協同で何かを学びあったり作り出したりする学びと創造のスタイルである。ワークショップ研修で気軽に自分のアイディアを出し合い、課題解決していく体験が、教師の協働の構築にもつながる.

〇授業観察時に付箋を記入しておくこと！　〇授業会場から協議室に直行すること！

１４：４５～１４：４６	１分間	① はじめの礼
１４：４６～１４：４９	３分間	② 改善点の付箋出し・集約・グルーピング
１４：４９～１４：５２	３分間	③ 改善点発表・分類・整理（コーディネーター）
１４：５２～１４：５５	３分間	④ 改善策付箋記入
１４：５５～１４：５８	３分間	⑤ 改善策の付箋出し・集約・グルーピング
１４：５８～１５：０１	３分間	⑥ 改善策発表・分類・整理（コーディネーター）
１５：０１～１５：０４	３分間	⑦ 観察対象児童報告（２名）　※端的に！
１５：０４～１５：０５	１分間	⑧ 授業アンケート報告
１５：０５～１５：０８	３分間	⑨ 授業者反省
１５：０８～１５：１１	３分間	⑩ 指導修自の講評
１５：１１～１５：４４	33 分間	⑪ 講師による指導と講評　（講師がいない時は省く）
１５：４４～１５：４５	１分間	⑫ 終わりの言葉・礼

３０分間で終了できるよう　ご協力ください！

●「ワークショップ・レポート研修システム」

ワークショップ型協議会は、研究協議会を活性化することができる。だが参観者は、当日の授業について直感で付箋を書くため、他の参観者の考えが残らない課題がある。その解決がワークショップ・レポートである。

1.ワークショップ・レポート研修システム

(1)ねらい

・学級や専科での授業実践をレポート形式でまとめ、自らの指導を振り返る　・互いの実践を読み合うことで、他の教師の実践のよさを学んだり、課題を共有し解決策を助言し合う

(2)日程

・○月○日にレポート提出・印刷後配布・○月○日までレポート熟読　●○月○日　時からワークショップ

(3)レポート内容

・研究授業についてのの報告（指導の工夫についての感想や意見など）

・授業についての実践上の悩み（指導を工夫したが成果が出にくい事例などの紹介）

(4)ワークショップの方法

・5 人程度のワークショップ、メンバーを変えて２回行う。20 分×２回。・全員でワークショップを 20 分行う。

(5)留意点

A4１枚にまとめる。レポートには、校名と氏名を入れる。字数は指定・レポートは提出されたものをそのまま印刷する（修正はしない)。期間中に必ず全員分を熟読しておく。ワークショップでは１回の発言 40 秒以内、相手の意見の否定はしない、相手の良さを言うことをを厳守する。

2.レポートを書き自分の考えを整理する

学習指導要領の柱の一つに「振り返り」がある。子供たちは自分のしたことを書き残し、それを振り返ることにより自分の成長に気付いたり自己の成長に気付いたり、自己の生き方を見つめ直している。教師も子供と同じように書かない限り、自己の考えをまとめることが出来ないし、更なる授業力の向上は望めない。他者が書いた情報を知り共有し、自己の授業改善を図るのがワークショップ・レポート研修システムだ。

3.レポートの内容

レポートを書く規準は特にない。子供が作文を書くときのように、教師も自分なりの授業の視点で書くようにする。普段うまくいっていることやいかないことをレポートに記す。

4.レポートを読む

自分がいいなと思ったレポートから、即、試すことができる。異教科の実践を知ることで刺激を受けたり、教科のつながりを学ことができる。子供たちの様子を知ることで、全職員で子供を育てる教師集団となる。

5.ワークショップを行う

レポートを読んで生じた「心」の動きをもってワークショップに望む。自分ならどうしようと学級や教科の実態を考え、新たなやり方を考えていくという新たな「心」が動く。それが次の授業改善の意欲へとつながる。

6.教師の変容

レポートを書く、読む、ワークショップで語り合うという一連の流れを繰り返すことで、変容していく自分を実感できるようになる。

7.様々な記述方法があるので下記のどちらかを選択をする

(1)同じ授業を全員が見て書く「授業改善論文」

研究授業を終えて、すぐに研究授業から学んだこと、これからの授業に生かしていくことなどを文章化する。この授業改善論文が、「日々の授業の改善」、「次の研究授業の改善」へとつながる。

(2)自分の授業や参会した「体験授業論文」

時間がない時や全員で授業を見れない時に書く論文である。自分の実践を書き授業を整理することや、他の参会者から学ぶための論文である。特にテーマは決まっていないので書きやすい。